

<授業実践7>「文学国語」読むこと

1 単元名

文学作品の表現や言葉のもつ影響について考察しよう。

2 指導目標

(1) 単元の目標

- ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(1)のウ)
- ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書に意義と効用について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(2)のイ)
- ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B「読むこと」(1)のキ)
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 言語活動

ア 言語活動

映像メディアの特性について理解を深め、他のメディアとも比較しながら、文学作品特有の表現について話し合ったり論述したりする活動。〔思考力、判断力、表現力等〕B「読むこと」(1)のキを参照)

イ 言語活動のねらい

メディアの形式的次元に着目することは、文学作品を新たな側面から捉えることでもある。本単元における言語活動を通して、今後の授業においても多様な読みにつなげていくことのみならず、今まで触れたり読んだりしてきた文学作品のもつ魅力を再認識することも期待される。本単元での学習を通して、新たなものの見方、感じ方を得、表現や言葉のもつ価値への認識を深めたい。

(3) 教材

ア 教材 「メディアと倫理」(『文学国語』筑摩書房)

イ 教材観

この評論はメディアの形式的次元に焦点を当てているメディア論であり、筆者はメディアと私たちがどのようにつながるかを説いている。メディアのコンテンツではなく、形式に着目するという新しい視点をもつ。その上で、写真やライブ中継のみならず、さまざまなメディアの形式がもつ特性が、私たちにもどのような影響をもたらすのかについて考える契機としたい。

(4) 主体的・対話的で深い学びの工夫

戦争をテーマにした写真をはじめとするさまざまなメディアをコンテンツ(内容)だけではなく、形式に着目し、私たち受け手に与える影響がどのようなものか考察していく。単元の中心では、テレビや新聞等、一般的なメディアのみならず、絵画や文学作品の形式についてもその対象にする。文学作品の内容を理解し、評価することだけではなく、表現や言葉のもつ価値への認識を深める契機としたい。

3 観点別学習状況の評価

(1) 単元の具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 ・ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書に意義と効用について理解を深めている。 	<p>「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。</p>	<p>映像メディアの特性について考えたり、文学作品と比較したりする活動を通して、言葉や表現が私たちの感覚に与える影響について理解しようと粘り強く取り組み、自らの学習を改善しようとしている。</p>

(2) 評価方法

ア 知識・技能

行動の観察、ワークシートの記述によって評価する。

イ 思考・判断・表現（読むこと）

行動の観察、ワークシートの記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
自分のものの感じ方、考え方を働かせ、言葉がもつ価値への認識を深める。	さまざまなメディアの特性を比較した上で、文学作品に対する見方や考え方を客観的に考察するとともに、作品の解釈や意義について自身の言葉で説明している。	さまざまなメディアの特性を挙げた上で、文学作品に対する見方や考え方について考察するとともに、作品の解釈や意義について説明している。	自分の読んだ文学作品を取り上げ、作品の解釈や意義について説明している。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

行動の観察、ワークシートの記述や振り返りによって評価する。

	評価A	評価B	評価C
ワークシートの振り返りと次の目標によって、取組を改善していく。	戦争に関連したメディアや作品を例示し、効果的に比較しながら、文学作品のもつ表現や言葉の価値について粘り強く考えている。また、自身の体験も踏まえて文学作品の価値や意義について捉え直そうとしている。	戦争に関連した作品を例示し、その作品をどのように捉えたのか、自分なりに考えをまとめようとしている。	戦争に関連した作品を読み、その作品の内容を説明しようとしている。

4 単元の指導計画（配当 4 時間）

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点	◇観点 □点検、観察、確認 ■分析 *「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて
第1次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 教科書本文を読み、写真と映像のメディアの形式的次元における「固有のメディア性」について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「戦争の恐怖」の図版を見て、感じたことを話し合い、発表する。 写真とライブ中継放送を比較し、それぞれの形式的次元の特性について把握する。 <p>*「ポイント図解」を配付し、二つのメディアの特性について整理させたい。</p>	<p>◇(知)</p> <p>□「行動の観察」(机間指導)</p> <p>*本文の要旨の把握がうまく進まない生徒には、「ポイント図解」を活用して整理するように助言をする。</p>
第2次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> さまざまなメディアの形式的次元に着目し、「固有のメディア性」について考察する。 グループ(四人組)で話し合い、発表する。 戦争の状況や悲惨さを伝える作品やメディアの特性について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ワークシート」を配付し、インターネット記事やSNS等、複数のメディアごとの特性についても考察する。 まず、自分の考えをワークシートに記入させる。グループの意見をまとめ、発表を比較し、相違点について気付かせる。 「手記」「音声」「絵画」等のように戦争の悲惨さを伝える作品(メディア)を紹介する。 自分の考えをワークシートに記入させた上で、話し合いをさせる。 <p>*各班からの発表も踏まえ、配付した「ワークシート」に各メディアの特性について整理させる。</p>	<p>◇(知)(思)(態)</p> <p>□「行動の確認」(机間指導)</p> <p>□「記述の確認」(ワークシート)</p> <p>*話し合いの際には、他者の発言も参考にさせる。</p> <p>*評価の観点表(ループリック)に留意し、学習目標を確認させる。</p>
第3次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 戦争をテーマにした小説や物語、エッセイなどの文学作品がもつ影響力について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに取り上げた、各メディアの特性と比較しながら考察させる。 <p>*授業時間に合わせて、今までに読んだことのある作品について、改めて捉え直してみることもよいこととする。</p>	<p>◇(知)(思)(態)</p> <p>■「行動の分析」(机間指導)</p> <p>■「記述の分析」(ワークシート)</p> <p>*評価の観点表(ループリック)に留意し、学習目標を確認させる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のねらいと評価規準について確認する。 ・戦争の悲惨さを伝える作品やメディアの与える影響について、話し合う。 ・振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> *「虚構」であっても、言葉や表現のもたらすリアリティがどのような影響を与え得るのか、それらの作品を自分がどう受け止めてきたのか等、適宜助言を行う。 ・クラスや生徒の実情に合わせて、作文形式にして提出させることもよい。 ・全体の振り返りをして、活動を通して学んだ点についてワークシートに記入、確認させる。 	
--	--	---	--

5 本時の指導計画

(1) 本時の具体的な目標

文学作品にある言葉や表現のもつ影響力について自分なりに考察し、「文学の力はどこにあるのか」や「なぜ文学作品は影響力をもてるのか」等について、自分の考えを的確に発表することができる。

(2) 本時の具体的な評価規準

文学作品にある言葉や表現のもつ影響力について自分なりに考察し、「文学の力はどこにあるのか」や「なぜ文学作品は影響力をもてるのか」等について、自分の考えを的確に発表している。

(3) 本時（3時／4時間）の指導計画

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を知り、言語活動の準備をする。 	①本時の目標と言語活動について確認する。	①前時までの学習と言語活動、評価ルーブリックの内容を確認させる。
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いに向けて、本時の学習内容について確認する。 ・自分を取り上げた作品について紹介する。 ・戦争をテーマにした文学作品の表現や言葉のもたらす影響について考察する。 ・本時の内容を振り返る。 	②戦争をテーマにした小説や物語、エッセイなどの文学作品の形式的次元の特徴について考察することを押さえる。 ③メディアの形式的次元に改めて注目した上で、戦争の悲惨さを伝える作品（メディア）にどのようなものがあるか挙げる。 ④教科書本文の論点である「形式的次元（特徴）」について考え、自分の気付いたことをワークシートにメモする。 ⑤本時の「振り返り」を記入する。	②教科書やワークシート等の内容をもとに話し合う内容について確認させる。 ③今までに読んだことのある作品について、改めて捉え直してみることもよいこととする。 ④ポジショニングマップを参考にし、文学作品と他の「メディア」の形式的特徴の違いについて確認させる。 ⑤本時の活動を通して、学ん

終結 (5分)	・次時の内容を確認する。	⑥班内での話し合いに向け、考察した内容についてまとめる。	だことを整理させる。 ⑥ワークシートへの記述内容や発表の様子を基にルーブリックにより評価することを伝える。
------------	--------------	------------------------------	--

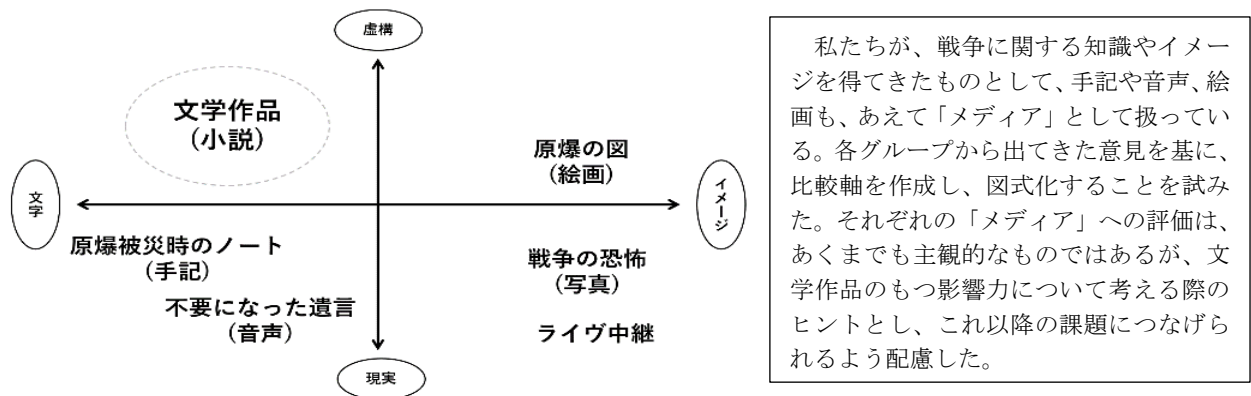
6 研究の実際と考察

(1) 第1～2次における指導と評価（ワークシート 課題1・2）

教科書本文の内容をまとめた「ポイント図解」を活用しながら、筆者の視点を把握した後、「写真」「ライブ中継」以外のメディアの形式についても考察した。生徒自身が日常でもよく触れている「動画メディア」や「SNS」等との比較も行った。本単元では、「文学作品」の言葉や表現がもつ影響力について考察することが言語活動の中心となるが、ここでは筆者の視点を十分に把握するために、一般的なメディアの同時性や信頼性、またそれらの特性について私たちがどのように受容しているのかについて確認する段階にとどめている。ワークシートへの記入や発表の様子から、「知識・技能」の観点で内容の理解度を測った。

【課題1 生徒発表例】

- 「新聞」や「テレビ」等のマス・メディアは他のメディアに比べると信頼性は高い。その信頼性が社会的影響力につながる。規制やチェックをクリアして報じられている印象。テレビの生中継と録画放送には多少の差はあるけど、紙媒体のメディアに比べれば同時性が高いと言える。スマートフォンを持つようになって、多くの人がネットニュースやSNSから情報を得ているけれど、デマやフェイクニュース等もあって、テレビや新聞のもつ影響力とは少し違いがあるような気がする。



【図1】

私たちが、戦争に関する知識やイメージを得てきたものとして、手記や音声、絵画も、あえて「メディア」として扱っている。各グループから出てきた意見を基に、比較軸を作成し、図式化することを試みた。それぞれの「メディア」への評価は、あくまでも主観的なものではあるが、文学作品のもつ影響力について考える際のヒントとし、これ以降の課題につなげられるよう配慮した。

次に、「戦争」に関する知識やイメージは、「テレビ」や「新聞」（一般的なメディア）だけから得たわけではないことを提起し、戦争をテーマにした作品に何があるか思いつくものを出し合った。文学作品の他にも映画や演劇、絵画や音楽等の作品が例に挙げた。この段階では「手記」「音声」「絵画」の三つの「メディア」に限定し、公開されているものを提示した。どのような形式的な特徴に気付き、一般的なメディアとの違いを見出すことができるか、また、その形式的特徴がどのような影響をもたらすのかについてグループごとで意見を出し合い、各グループから出た意見を、ポジショニングマップとして図式化してまとめ、共有を図った（図1）。ワークシートへの記入や発表の様子から、課題3の記述と併せて「思考力・表現力・判断力」の観点で理解の深まりや広がりをも測った。

【課題2 グループ発表例】

- 『不要になった遺言』は「声」による表現である。声の抑揚や言葉の詰まりが臨場感を生み、聴く人の心を揺さぶる。『原爆被災時のノート』も実際に経験した人の言葉だから音声と同じような効果がある。ただ、当時の書き言葉で記されているから、私たちには分かりづらいところもあった。
- 『原爆の図』を見たけれど、「絵画」は「写真」と同じように、視覚的なメディアと言える。写真は一瞬を捉えたメディアとして「映像」と対比されるが、絵画はストーリー性をもたせた表現もできるわけだから、ある種「映像」に近い特徴があると言えるのかもしれない。描いた人の伝えたいものが強く出ていたり、色の塗り方で、より酷さが際立ったりして脳裏に焼き付く感覚があった。

(2) 第3次における指導と評価（ワークシート 課題3）

最後に、他のメディアと比較しながら文学作品の形式的特徴がもたらす影響について考えた。自身が読んできた小説や物語等の文学作品を例に挙げて、形式的な特徴について考察することは、自身の読書体験を客観視することにもつながる。本単元では、どの作品を例示するかも生徒に委ねたが、共通の作品を読んで意見を出しあったり、話し合ったりすることでも、十分に単元のねらいを果たせるだろう。それには生徒の実状や授業時間数を考慮して計画したい。本単元では、課題2で共有したポジショニングマップも参考に、小説や物語のもつ形式的な特徴に着目し、考察につなげようと試みた。生徒の発表からは、文学作品の「虚構性」「表現や修辞」「語り」等の特徴を見出している意見が多く、それらが「文学の力」であり「文学の意義」と言及したものもあった。「言葉」のもつ力や可能性について改めて考え直す契機となった。個人でワークシートへ記述させた後に、グループで共有したり、授業者による質問について再度話し合ったりすることで、自己の意見を深められるよう配慮している。ワークシートへの記入や発表の様子と振り返りの記述から併せて「主体的な学習の態度」を見取ることにした。

【課題3 生徒発表例】

- 私たちは、小説や物語、エッセイ等の文学作品を通して、「戦争」の悲惨さについて知っている。何十年も前のことで実際に体験していないのに、戦争を経験した人の悲しみや苦しみをなんとなくでも想像できるのは、文学作品に触れてきたこともあるからだろう。文学作品をひとつの「メディア」として捉えたとき、他のメディアとの最も大きな違いはなんだろうか。小説や物語の中心には、必ず主人公がいて、主人公の視点で「戦争」の悲惨さを捉えることになる。感情移入や疑似体験することができる。主人公の言葉に共感したり同情したり。そう考えると、前の授業で触れた「音声」や「手記」に近いものがある。主人公の「言葉」を通して、情報（戦争）を伝える「メディア」と言える。

7 研究の成果と課題

写真とライブ中継の形式的次元の違いを明らかにし、それぞれの特徴がもたらす影響について考察するという視点の枠組みの中に文学作品を含めて分析してみようというのが本研究の主眼である。前述の言語活動を意義あるものにするために、筆者の立場や論理構成をよく理解するための十分な時間を確保した。「思考力、判断力、表現力等（読むこと）」の目標を達成するための方策として、生徒自身がそれ

ぞれ自由に作品を選び、論じたり発表したりするのではなく、生徒たちが知っている作品を一つ取り上げて、全員でじっくり読み直して意見を交換することもよい。本実践における「課題3」の取り組みは、「文学とは何か」「文学・虚構の力はどこにあるのか」と、本質的な問いにもつながる。今後は、学習指導要領「文学国語」の科目の目標も鑑み、文学作品にある言葉や表現の一つ一つを吟味、評価することにより、自らの感性を磨く契機となるようなものにしていきたい。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の際には、授業内の反省を読み取るだけでなく、他の2観点の評価と併せて、生徒一人一人の学習の深まりや広がりを見取りたい。また、生徒自身がまとめの記述や振り返りを行うことで、やりがいや達成感をもち、今後の学習の見通しについて結び付けられるものにしていきたい。今後は、まとめの記述と補完し合いながら評価する具体的な方法について、担当者間でも共有していく必要がある。